

ダム堤体に刻まれた赤いラインの謎

ダム完成時(S43)の状況



現在の状況



(拡大)



四十四田ダムの建設当時、北上川上流には、東洋一の硫黄産出量を誇った旧松尾鉱山があり、そこから流れ出る酸性水を消石灰や炭酸カルシウムなどで中和することで、北上川は赤く濁った魚の住めない「死の川」となっていました。

ダム完成から50数年が経ち水質改善がなされた今でも、堤体には当時の名残である赤いラインを見ることが出来ます。